

課題番号	問題点	本来どうすべきであったか	やるべきこと(課題)	再発課題	原因分析	対策
1	事象の発生時刻を伝えることができていなかった。また、客観的な情報提供ができていなかった。	事象の発生時刻を必ず伝え、事象については客観的に伝えるべきであった。	教育・訓練による練度向上：情報発信の際の注意点(発生時刻を必ず伝える、事実のみを伝える)		要素訓練により前回より練度が向上したが、より正確、整理された情報提供を行うには、訓練が不十分であったと考える。	より正確で整理された情報提供ができるよう、要素訓練を継続する。特に状況説明、進展予測については、COP活用と併せて練度向上をはかる。
	事象の進展予測など、整理された情報の提供ができていなかった。(再発事項)	事象の進展予測など、整理された情報も伝えるべきであった。	教育・訓練による練度向上：状況説明、進展予測に関する説明もできるように	✓		
2	説明のための資料・図面が十分ではなかった。(再発事項)	不足している資料がないか、さらに検討をすべきであった。	資料の充実化：不足している資料について再検討し、資料の充実(特にKUCA関係)をはかる。	✓	図面集に不足がないかの調査が不十分であった。	ERC担当者とともに不足している資料の再検討を行い資料の充実をはかる。
3	ERC対応者のマイクが周囲の音声も拾ってしまい、発話内容がERCに対して明確に伝わっていなかった。	ERC対応者の発話内容が明確にERCに伝わる設備を設置すべきであった。	設備の見直し：マイクを指向性のあるものに変更予定。		マイクに指向性が必要であるかの検討ができていなかった。	通信連絡用に設置しているマイクのうち、指向性マイクが適していると考えられるものは更新する。
	緊对本部と現地指揮本部間のテレビ会議システムのマイクが周囲の音声も拾ってしまい、発話内容が明確に伝わっていなかった。	緊对本部と現地指揮本部間での発話内容が明確に伝わる設備を準備すべきであった。	設備の見直し：指向性マイクの導入を検討。			
4	通報様式(フォーマット)に記載する際、十分なスペースが確保されていなかった。	FAXは読みやすいフォーマットであるべきであった。	通報様式の改訂：「その他の事項の対応」の最右欄の記載を工夫してスペースを確保し「発生事象と対応の概要」の記載欄を広げる。		通報様式を作成する際に、記載されるであろう内容の分量を想定できていなかった。	通報様式に記載されるであろう内容の分量を想定したうえでフォーマットを検討し改訂を行う。
5	FAXによる通報連絡において、記載すべき箇所を間違っていたり、体裁が整っていなかったりした。(再発事項)	FAXによる通報連絡は、様式に従い、適切な箇所に適切な内容を記載し、記載の体裁についても確認をすべきであった。	教育・訓練による練度向上：FAX担当者へ再教育を行い、適切なFAX通信文の作成技術を向上させる。	✓	FAX担当者への教育訓練は継続して行っており、練度も向上しているが、多くの情報が錯綜する中での正確なFAX作成には限界があったと考える。	短時間で正確なFAXを作成することができるように、EALごとの「見本」を準備する。

6	EALの判断基準(判断根拠)が明確でなく、ERCへの説明に混乱が生じた。	EALの判断基準は明確であるべきであった。	防災業務計画の見直し：判断基準を検討し、次回の防災業務計画の見直し時に反映させる。		EAL(SE04)の判断基準が不明確であった。	判断基準を検討し、次回の防災業務計画の見直し時に反映させる。
7	緊急作業団の参集時に各作業班の人員数や班員の状況について、緊急対策本部に情報提供できていなかった。	緊急作業団の参集時に確認した各作業班の人員数や班員の状況は、現地指揮本部から緊急対策本部に情報提供すべきであった。	マニュアルの修正： 現地指揮本部の開設・運営マニュアルの修正を行い、現地指揮本部員への教育を行う。		現地指揮本部が行うべき役割が明確になっていなかった。	現地指揮本部の開設・運営マニュアルの修正を行い、現地指揮本部員への教育を行う。
	発災現場での指揮や現地指揮本部との連絡を担当する班員が配置されていなかったため、現場作業が統率されていなかった。	複数の班員が合同で作業を行ったり、汚染や被ばくのおそれのある作業を行ったりする場合は、現場での指揮や現地指揮本部との連絡を担当する班員を配置すべきであった。				
8	防護衣の正しい着用ができていなかった。	防護衣の正しい着用方法を習得し、汚染の可能性のある作業に備えるべきであった。	教育・訓練による練度向上：正しい方法で防護衣の着用ができるように教育・訓練により、練度向上を行う。		防護衣の着用方法が正しく習得できていなかった。教育、実習が十分でなかった。	正しい方法で防護衣の着用ができるように教育・訓練を行い、練度向上を行う。
9	事象の進展や対策をCOPとしてまとめ、ERCへ情報提供することができなかった。(再発事項)	事象の進展や対策に応じてCOPを作成し、適宜ERCへの情報提供をすべきであった。	COP作成ツールの構築： 教育・訓練による練度向上：COPのデジタル化による作成の簡略化を行い、COP作成方法についての教育・訓練により、練度向上を行う。	✓	COPは手書きで作成しているが、事象が進展するごとに新規に作成していると時間がかかりすぎ、結果として適切なタイミングでのCOPの提供ができなかった。	COPのデジタル化による作成の簡略化を行い、COP作成方法についての教育・訓練により、練度向上を行う。
10	シナリオに不適切な事象進展や状況付与の不足があり、訓練の進展がスムーズでない場面があった。	シナリオの作り込み不足や不十分な状況付与により、事象や対応の進展に不整合が生じた。シナリオの作り込みを入念にすべきであった。	訓練準備をより入念に行う。		シナリオの作り込み不足や不十分な状況付与により、事象や対応の進展に不整合が生じた。	シナリオの作り込みなど、訓練準備をより入念に行う。